

# ハワイ産ネソプロソピスの雄蜂の愉快的顔面写真集

ひらしまよしひろ いくどめしゆういち かみたにさとし  
平嶋義宏・幾留秀一・紙谷聡志

ハワイ群島にはネソプロソピス *Nesoprosope* という特別な花蜂が生息している。何故特別かという、この花蜂は発見当時はハワイ群島に固有なもので、しかも新属として記載発表された。驚くことに、この新属に53種の新種も発表されたのである。

これは昆虫の適応放散の好例の一つとして受け取られている。すなわち、大昔にハワイ群島が成立し、そこに動植物が進入し、定着し、繁栄して、現在のハワイ群島の植物相（フローラ）と動物相（ファウナ）が出来上がったのである。その中の一員としてネソプロソピス（島のプロソピス *Prosope*, の意）がある。数万年前にこの群島にたどりついた祖先種が定着し、やがて種分化を起こし、53種の種類として繁栄しているのである。これは、まさに奇跡に近い。我が国にもネソプロソピスを産するが、わずか9種にしかならない。

このネソプロソピスは後年、ヒュラエウス *Hylaesus*（森の、の意）に併合され、現在はその1亜属と扱われている。このヒュラエウスは大きな属で、世界中に分布する。

私共は、ホノルルのピシヨップ博物館昆虫学部からハワイのネソプロソピスの多数の標本を借用して研究中である。この度、その中から32種の♂の顔写真を発表しておきたい。これは眺めるだけでも楽しい。

なお、ハワイのネソプロソピスの分類は現在いささか混乱しているので、学名（属名と種小名の結合）の提示は混乱を招くばかりとなろう。異例ではあるが写真に付した番号によって種を識別していただきたい。この写真集は、将来の研究の一助になろう。

## グループの特徴

(1) マーラースペースがよく発達している(写真1~4)。



ネソプロソピス *Nesoprosope* の全形図（左：大型種、右：小型種）

(注) 写真では、マーラースペース（複眼下縁と大顎の基部とのスペース）の広さをよく認知できない。

(2) スケイプ (scape, 柄節) が団扇状に膨大しているもの(写真5, 6, 他にもある)。

(3) 顔紋が特徴的なもの(写真7, 8, 29, 30)。

(4) 顔に黄紋がなく、全面が黒いもの(写真6, 9, 11~14)。

(5) 顔面の黄色斑がよく発達したもの(写真15~18)。

(6) 顔面紋はよく発達し、柄節にも黄斑があるもの(写真21, 22)。

(7) 黄色斑は顔の中央のみに存在するもの(写真19, 20)。

(8) 顔面紋の発達は悪く、頭盾側面だけに小さな紋として存在するもの(写真23, 24)。

(9) 頭盾先端のみに小さな紋が存在するもの(写真25)。

(10) 顔面の黄色斑がよく発達し、頭盾上端部も黄色い(写真26~28)。

(11) 顔面紋は特徴的。一見して写真7と8に似るが、顔の広さに差がある(写真29, 30)。



写真1-12. ハワイのネソプロソピス *Nesoprosopis* の♂の顔面写真

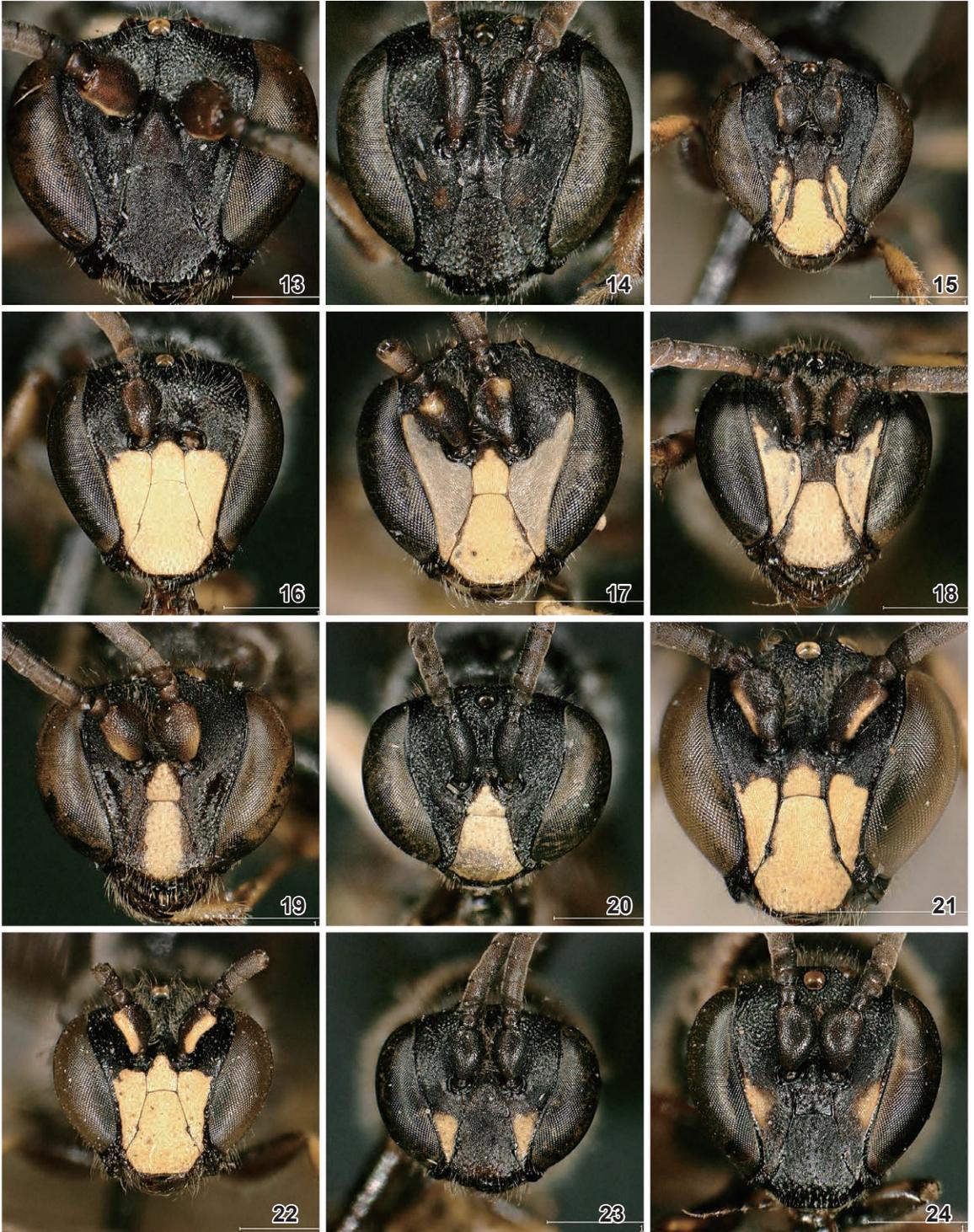


写真13-24. ハワイのネソプロソピス *Nesoprosopis* の♂の顔面写真

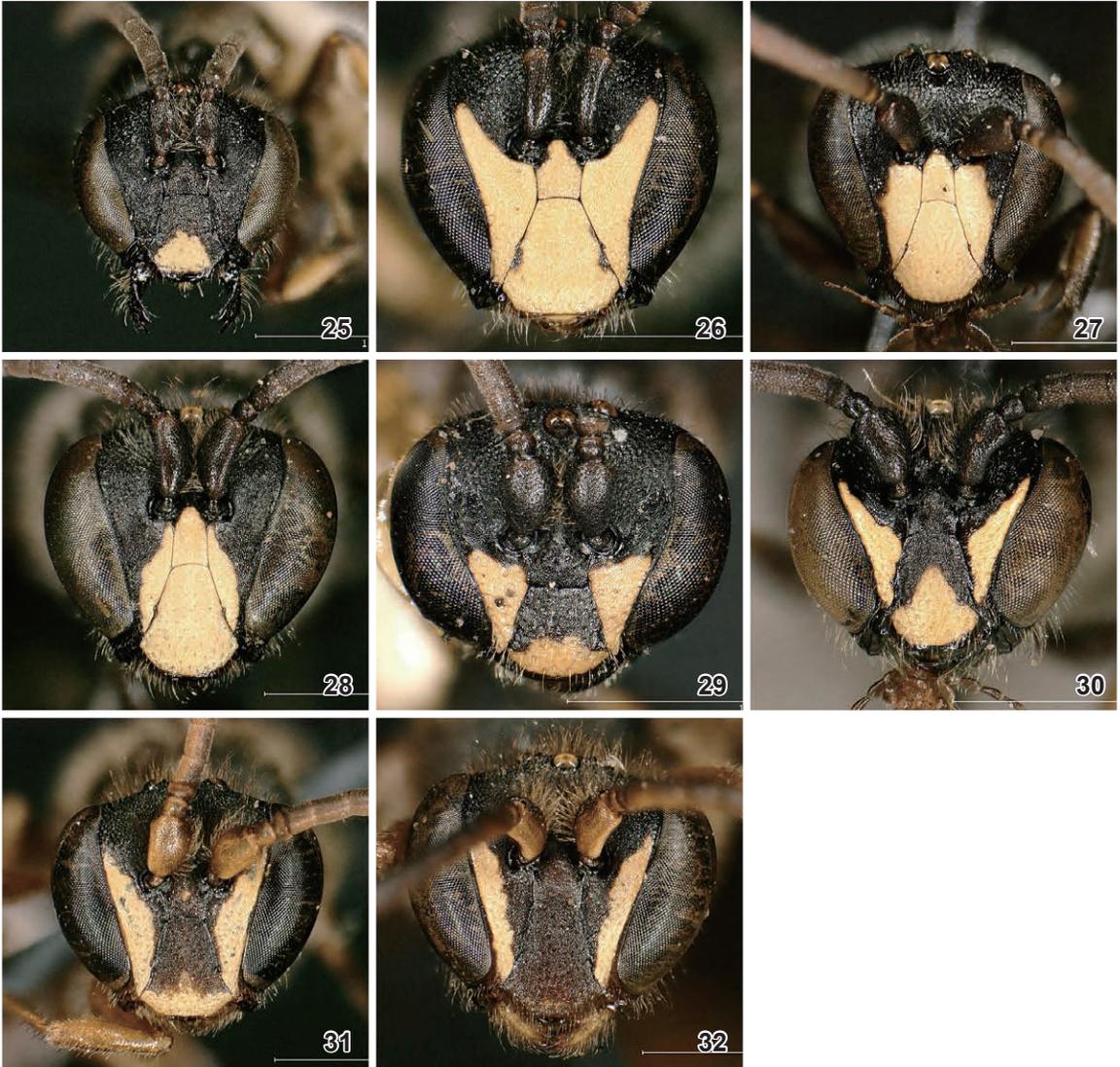


写真25-32. ハワイのネソプロソピス *Nesoprosopis* の♂の顔面写真

(12) 体全体が赤く、触角柄節まで赤らんでいるもの（写真31, 32）。

なお、手近に見られる参考文献として、下記の2つがある。

1. 平嶋義宏 (2008) ハワイの昆虫, その驚異的な進化 (8) ハチ類の適応放散. 月刊むし (453): 46-50.
2. 平嶋義宏編 (2017) 図説 日本の珍虫 世界の珍虫—その魅惑的な多様性. 587pp. 北隆館.  
本書の中に平嶋が執筆したネソプロソピスに関する2編がある。掲載された写真は素晴らしい。

最後になったが、標本を貸与されたビショップ博物館昆虫学部に深甚な謝意を表します。

(平嶋：九州大学名誉教授・宮崎公立大学名誉教授：〒810-0045 福岡市中央区草香江2-12-12-105)

(幾留：鹿児島女子短期大学特任教授：〒890-8565 鹿児島市高麗町6-9, 鹿児島女子短期大学附属南九州地域科学研究所)

(紙谷：九州大学准教授：〒819-0395 福岡市西区元岡744, 九州大学農学研究院)